



書
評

解剖と正常像がわかる！ エコーの撮り方 完全マスター

編：種村 正

AB判・頁272 2014年 定価：本体5,000円＋税
[ISBN978-4-260-02018-3] 医学書院刊

＜書評者＞ 遠田栄一（三井記念病院検査部部長）

技術習得に必要な知識を網羅超音波検査ビジュアル入門書

超音波検査の第一人者である種村正先生の熱き思いが伝わる教科書が誕生しました。読み進めていくうちに、いやはや驚きました。初学者の入門書のかくあるべき姿がここにあったからです。

超音波検査は非侵襲的かつ短時間で多くの情報を得ることができるため、日常診療では必須の検査法となっています。しかし、本法は全く臓器の見えない体表からプローブを当てて、ある目印を頼りに検査担当者が自らの手で異常を探するという技術を必要とする検査法です。この技術をマスターするためには解剖学や病態生理学はもちろん、プローブの当て方、装置の調整法などを系統だてて覚えていくことが必要となりますが、指導者のいない施設では難しいと言わざるを得ません。

本書はこうした方を対象に「見たらわかる。読めばもっとわかる」をコンセプトに多くの写真とわかりやすいシェーマを駆使し、初心者でも超音波の撮り方が学べるように配慮された教科書です。第1章の総論ではプローブの種類と持ち方、装置の調整法などを実際の写真と超音波画像を並べて、装置に触れたことがない方でも簡単に理解できるように解説しています。第

II章からの各論では多くの初心者が難しいと感じる断面設定法（撮り方）を、プローブを当てている写真、解剖図、超音波の画像とそのシェーマの4点をセットにし、超音波のビーム方向と臓器の位置関係が一目でわかるように工夫しています。この点が本書の最大の特徴であり、その試みには友人としてエールを送りたいと思います。

本書のもう一つの特徴は、全ての筆者が各分野の第一人者であるということです。経験に裏打ちされた撮り方のコツや知っておくべきポイントを、簡潔明瞭な文章と「ワンポイントアドバイス」「ピットフォール」などで惜しげもなく伝授しているため、ページをめくるのが楽しくなること請け合いです。また、各分野の最後に掲載されている日常でよく遭遇する症例の写真や所見、観察のポイントは実践書としても使えるため、初心者にとっては嬉しい限りです。

本書は全領域の超音波検査の撮り方をマスターするのに必要な基礎知識や実践的な技術、検査の進め方などが網羅されたビジュアル入門書です。臨床現場の初心者のみならず、学生の実習テキストとしても大いに活用できると思います。

正しい超音波検査の技術習得を目指している皆様へ、ぜひとも推薦したい撮り方の教科書です。